

家族に代わり介護や看護

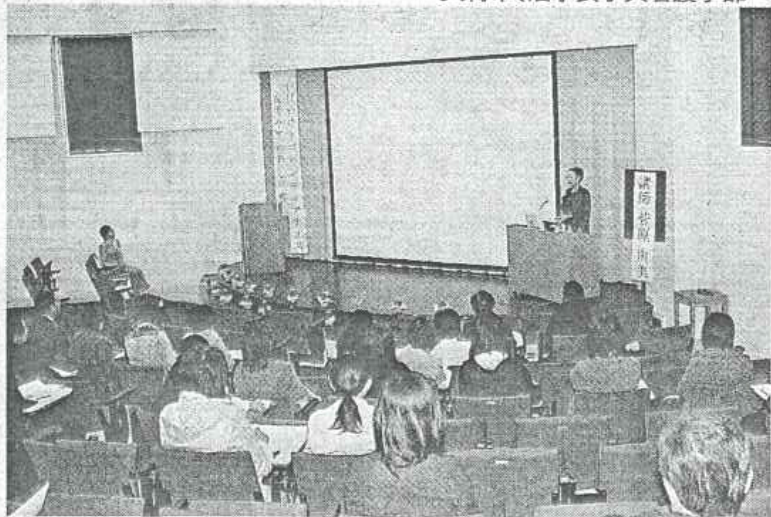
家族に代わり介護や看護を支援する訪問ボランティアナースの会「キャンナス県央長崎」(三田村美津子代表)が、大村市に発足した。県内初の設立を記念した講演会がこのほど、大村市久原2丁目の活水女子大看護学部であり、全国組織「キャンナス」の菅原由美代表が「在宅ケアの新しい形」と題し、講演した。

キャンナスは、在宅介護や看護を支援する有償のボランティア活動。家事や育児で職場を離れた看護師が、自らの経験を地域で再び生かせるようにと、菅原代表が1996年に設立。全国各地に41の拠点があり、活動している。

会の名称は「Can(看護)」

大村「キャンナス県央長崎」発足

「キャンナス県央長崎」設立を記念して開いた講演会
—大村市、活水女子大看護学部



おせっかいの輪広げて

全国組織・菅原代表が記念講演

ことをできる範囲で行う「Nurse(看護師)」の意味。記念講演会には、介護や行政関係者ら約140人が出席。元看護師の菅原代表は「キャンナスは潜在ナースの掘り起こしを目的に始めた。自分も家族の介護を自宅で経験した。家でみとるターミナルケアは難しいと思う人が多いが、そうではない」と指摘。「主婦であり、母であるという経験は、ブランクがある看護師にとっての強み。利用者の気持ちを理解しやすい」とボランティアアナースのメリットを強調し、「おせっかいの輪を、大村から広げてほしい」と呼び掛けた。

キャンナス県央長崎は4日午後2時、同市赤佐古町の向陽学園長崎リハビリテーション学院図書館3階で、活動の詳しい説明会を開く。同会事務局(電0957・56・8782)。

(吉岡俊治)